

● 第 11 回委員会 会議要点録

平成 19 年 12 月 6 日 18 時 30 分～21 時
多摩市役所 特別委員会室

出席者：檜垣正己委員長 江尻京子副委員長 伊藤雅子委員 大木貞嗣委員 笹島
正一委員 白鳥光洋委員

事務局：企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

審議

- 政策提言について

今後の予定

- 第 12 回 1 月 18 日(金曜) 18 時 30 分～

委員 読むのに時間がかかる。これから市民の理解を得ようとするのであればも
っと工夫が必要。

委員 行政評価報告書は予算や議会では役に立つはず。

委員 評価対象事業の抜粋をやってみても良い。道路等変化が少ないものは取り
上げる必要はないのでは。今年のアンケートの状況は？

事務局 12 月 5 日に無作為抽出で 50 名に行政評価報告書を送った。25 日までには
回答をいただくことになっている。市役所等に設置してあるボックスや公式ホ
ームページでも回答可能。アンケートのやり方は昨年と同じ方法。昨年は 15
件回答があり。内訳は無作為抽出が 13 件、ホームページ 1 件、図書館に設
置したボックスに 1 件。

委員 行政評価は議会に出すのか？

事務局 1 次評価としての 1600 ページのものは決算委員会に資料として出した。

委員 行政評価報告書の 66 ページに自治基本条例推進事業についての費用の
内訳は？

事務局 自治推進委員会委員謝礼と職員経費。

委員 公式ホームページに公開されたとのことだが、行政評価報告書は階層構造
をもっているの、優先分野をクリックするとさらにその下の分野がでてくるよ

うにして欲しい。PDF では読む気に離れない。将来そういう形の閲覧ができるよう考えて欲しい。

委員 先程、アンケートは不適との意見があったが、アンケートに変わるものがない。協働で行った事業をどう評価するのか難しいところ。

委員 市民のアンケートだけで良いのか？

事務局 評価に対する市民の参画が一番弱いと自覚している。今は模索している。

委員 前回の自治推進委員会でも話題になったが、外部に評価をしてもらうということと形式だけの参画だけではいけないことを理解していただきたい。

事務局 いただいた意見をもとに来年度に改良をしたい。

委員 では、続いて、政策提案の「人材活用、育成」について話を進めたい。

委員 検討する前提として人材という言葉について整理した。市民活動にはいろいろあり、市役所内部にも縦割りがあり市民が十分なサービスがうけられない。市民の活動団体は、趣味や同好会的なものが主で、ボランティアのような公共的なものは限られている。市が市民活動に係わるのであれば、仕組み作り、財政支援、人材派遣が考えられる。市民活動情報センターの機能を見極めることも必要。色々な施設が別々に動いている。整理統合したほうが良い。公共的な市民活動は特別な扱いをし、補助金や施設を優先的に利用できるようにしたほうが良い。市民サービス何でも相談室とは、誰でも気軽に相談できること。そのために相談に応じられる人が必要。どういう人たちに任せることができるか？ やる気があって能力がある人が市民活動情報センターにいると良い。そういう人はいるか。

事務局 窓口にいるのは正職員と非常勤。

委員 部課長を務めた人が窓口で嘱託職員としているか？

事務局 市民活動情報センターにはいない。

委員 組織・施設の統廃合の組み換えは、市民活動情報センター、ボランティアセンター、NPO センター、公民館等の各事業の重複部分の統廃合を考えていくという政策提言案とまったく同感。並存して役割を果たすことも重要だが混乱する。連携できるようにするのが良い。抜本的見直しまではいかなくとも連携はして欲しい。

委員 コーディネーターになれる民間の人はどれくらいいるものなのか。育成するところがあると良いのだが。

委員 コーディネーターを多数募集し、交代でやりながら訓練し、意欲のある人が残るようになれば良い。

委員 ひとりで全部を把握してコーディネートするというのは不可能。

委員 市の職員がひとりいて、あとふたりいれば。

委員 多摩市のような狭い地域では、ある程度のことはわからないと、相談しに来た人の思いをダメにする。市民活動研究所のようなものももしかしたら必要かも。

委員 コーディネーターは個人でなくても集団でも良い。

委員 市民活動情報センターは来た情報を発信しているが、情報を咀嚼して地域に出て行ける状況をつくってあげるためには、コーディネーターがひとりふたりでは無理、チームでやることができれば面白い。

委員 民生児童委員には代表者という取りまとめた方はいるのか？

委員 会長、副会長がいるが、日常的に忙しいのでコーディネーターのようなことは難しい。

委員 ひとりでなんでもするのは難しい。

委員 市役所の代表番号に電話を掛けたら、たらい回しにされたことがある。

委員 今の住民は行政に対する意識の高い人が多い。そういう人たちを受け止められることが必要。

委員 自治推進委員会でいくつかのアイデアを出して、市が対応してくれると良い。次回あたりまとめたい。

委員 先程、話があった公共的な市民活動の具体的な例は？

委員 災害弱者、幼児、障害者等社会的弱者や防犯については助成したり、共通の事務所をおいたりするのはいいのではないかと思っている。線引きは難しい。市民との協働、公共との協働で手厚い仕組みを作ったほうが良い。これだけやったらこれだけの助成をしますというやり方があっても良いし、子育て事業について考えがあれば提案してください、でも良い。市としてもやっているが、ボランティア活動として整理できれば。きっかけは大事、呼び水として市が呼びかけるのは良い。

委員 協働事例集などを踏まえてどこがうまくいっていて、どこはうまくいっていないか調べて優先分野を定めると良い。選ぶ過程を透明にしないと。

委員 公民館で講座を受けた人がグループをつくって、多摩市と協働でやる。個人では難しい。

委員 それはコーディネーターが呼びかけても良いし、市がやっても良い。

委員 公民館がやっている。広報で広く呼びかけてやっている。

委員 自主グループだけでなく講座型もある。今までのものをまとめて提案する。次回は1月18日、次々回は2月14日。

— 以上 —